梅毒ＴＰ抗体スクリーニング検査の再評価

○狩野　春艶 ,西岡　由起 ,久保田　浩司 ,石井　克彦 (兵庫医科大学病院ＭＢＣラボ)
戌角　幸治 (兵庫医科大学病院　検体検査部)

<はじめに>当検査室では、ＦＥＩＡ（以下本法という）を原理とした自動分析装置で測定を実施しており、数値 (index)化された測定結果の判断や、報告値の解釈に関する臨床医からの問い合わせ対応に苦慮するケースは少なくない。このようなケースへの対応を検討するため、ＴＰ抗体測定試薬の性能再評価検討と、retrospective にＴＰ抗体測定の有用性を検討し若干の知見を得たので報告する。

<使用機器と試薬>自動分析装置には、エルジアＦＳ１２００ およびＰＡＭＩＡ５０ (シスメックス社)を用いた。抗ＴＰ抗体試薬は「ＴＰオート・Ｆ（KW）」および「ランリームＴＰ」・「ランリームＴＰ 確認用吸収液」 (シスメックス社)、イムノクロマト（ＩＣＡ）法としてダイナスクリーンＴＰ（アボット社）、およびＲＰＲテスト“三光”（三光純薬社）を用いた。それぞれの測定操作は取扱説明書に従った。

<対象と検討内容>対象：梅毒検査の依頼のあった患者血清 96例（本法で当検査室の再検基準であるC.O.I値 0.7以上を示した検体、あるいはＲＰＲ法で陽性を示した検体）および、 159例（ＩＣＡ 陰性 62例、陽性 97例）の検体を用いた。検討内容：基礎的検討に加えて、本法によるＴＰ抗体検査実施前（ＩＣＡ）と現在の検査成績について、それぞれ６ヶ月分を抽出・集計し比較検討を行った。<結果>１．基礎的検討はいずれも良好な結果を示し問題は認めなかった。２．ＦＥＩＡ陽性でＣＩＡによる吸収試験陰性例が散見された。３．ＴＰ抗体陽性と報告したうち、ＦＴＡ－ＡＢＳ法の出検率は8.2%であった。<結語>本法の基本的性能は良好であり、分析精度に問題はみられなかった。ＴＰＨＡ法の考えをもとに診療を行っている臨床医は、本法での検査成績の解釈に苦慮している。一方、スクリーニング検査で陽性を示しても、確認試験がオーダーされる例は僅かである。本研究に協力いただきました、明石市立市民病院臨床検査科の浜 英雄氏に深謝いたします。連絡先： 0798-44-4931